



Title	伝統ある研究発表会
Author(s)	朝倉, 利光
Citation	電子科学研究, 3
Issue Date	1996-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/24333">https://hdl.handle.net/2115/24333</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_Kantou.pdf



## 伝統ある研究発表会

朝倉利光

北海道大学電子科学研究所は、平成4年に50年の歴史をもつ応用電気研究所が改組・転換して出発したものである。この出発を契機に、研究所の学術誌として「電子科学研究」を平成5年度から毎年1回刊行することになった。本研究所では、研究成果はすべて学会誌や学術雑誌などに発表することにしているが、「電子科学研究」は研究所の研究活動を広く理解して頂くことを目的としている。その内容は、「解説」、「プロジェクト研究」及び「研究」からなっている。「解説」は、各研究部門が順次担当し、その研究部門を構成する各研究分野が行っている研究課題について多くの人に理解して頂けるような解説を行うことを目的としている。本号では、この解説を「電子材料物性部門」が担当している。「プロジェクト研究」は、研究所で行われている研究分野間にまたがる共同研究プロジェクトの研究報告である。「研究」では、毎年本研究所で行われている研究発表会で発表された講演内容をまとめて掲載している。したがって、「プロジェクト研究」と「研究」は、現在研究所で行われている種々の課題についての研究速報としての意味を持っている。

「研究」の基になっている電子科学研究所研究発表会について振り返ってみよう。本研究所の今までの歴史の中で、一貫して行われてきた唯一のものが研究発表会である。研究発表会を振り返ってみると、最初は研究会と呼ばれて昭和18年8月に第1回目が行われ、この後は年に何回か間欠的に行われ、昭和21年9月まで続いた。その後は研究発表会と名称を変更し、昭和23年10月に第3回応用電気研究所研究発表会が開かれた。残念ながら、第1,2回の記録が見つからずそれらがいつどのように行われたか不明であるが、多分昭和21年10月頃に第1回、昭和22年10月頃に第2回が行われたのではなかろうか。それ以来、研究発表会は毎年1回秋に順調に行われて現在に至っている。ただし、平成4年は応用電気研究所創立50周年・電子科学研究所発足記念式典にからむ行事のため研究発表会は中止とした。

研究会から始まった研究発表会は、応用電気研究所時代の平成3年までに46回開催され、続いて電子科学研究所に引き継がれ平成7年度で第3回を迎えている。この期間、毎年の研究発表会では20件から50件の範囲で研究発表が行われ、かつ発表において種々の工夫がなされたり、特別企画として特別講演や特定のテーマについてのシンポジウムが組み込まれることも多々あった。各年の研究発表会の演題は、「応用電気研究所50年史」(北海道大学応用電気研究所50年史編集委員会編集、平成6年3月発行)及び「研究活動」(電子科学研究所要覧、平成7年発行)に掲載されているので参照されたい。これらの演題から、本研究所で行われてきた研究が、実によく理解でき、かつ系統的な研究の流れを知ることができ興味深いものがある。

正に研究発表会は、本研究所における伝統ある学術発表の行事として確立されてきた。この研究発表会の目的は、一義的には外部へ向かって研究所で行われている学術発表の場であるが、それ以上に研究所内における相互の研究の理解にあるように思われる。本研究所では、広範囲な領域における研究が各研究分野において実施されており、お互いの研究がややもすると疎遠になりがちである。本研究発表会は、この傾向に対処して相互の研究理解を増進し、かつ広い領域における研究への刺激を与え、かつ研究所の一体感を強める働きをしているように思われる。電子科学研究所の発展は、この伝統ある研究発表会の活動をより高いレベルに押し上げていくことにかかっていると一言しても過言ではなかろう。